

奥能登町野川下流域調査ノート……………香月洋一郎

I 奥能登の谷 10

はじめに 10

1 谷に始まる物語 11

阿部判官の伝承 住みついた一家 谷田の開墾 町場的集落

土塁の家 谷からおりた家 川向こうの時国家

2 谷のもつ意味 34

谷奥の寺院 海を望む棚田

II 伝承のなかのむら 44

1 山間のむら 44

七堂伽藍 クミとジゲ 旧家の立地

2 井池家の伝承 39

井池家と火事 力持ち ガンノコの伝承
むらと組合 71
組合結成 伝統と近代

III 浜のむらの暮らし——曾々木の生活誌 81

1 曾々木というむら 81

汀線に沿う家々 伝承の時代 三つの地区 ミナトの集落 出稼ぎ

2 暮らしのなかの漁業 93

浜に並ぶマグロ 漁と塩浜 漁法への模索 タイの一本釣り

イワシと農作物の交換 魚の行商 漁と風 イワシの底曳網

サシ網漁 トビウオ ハチメ アカエイ、イカ テンマでの磯漁

カレイ、ニジリ ハコガラスでの釣り ワカメ エゴ 素潜り漁ほか

3 むらと塩浜 126

製塩のむら 朝の島影 塩浜の条件 パンの造成 シオギ

4 荷船の稼ぎ 139

ミナトと荷船 川への避難

船稼ぎ——川端作雄さんの聞き書きから 難破 船に乗る 海と往来

港へ 船さばき 動力船 冬ごもり

5 むらを歩いて 154

行事と生業 キリコと塩浜 岩倉寺と曾々木 キシユウマツリ
ミナトの家々 山境 窓岩 行者の住む穴

IV 時国家とその伝承 172

- 1 実体への模索 ¹⁷²
家としての実体 旧家と時国家 東大野のむら 粟蔵の粟蔵家
戸主の伝承
- 2 立地とその性格 ¹⁸⁹
曖昧な印象 聖地伝承のなかに
- 3 時国家の暮らし ¹⁹²
番頭として お正月 ヤッコ正月まで 南時国のニワマツリ
冬の作業 春から夏 家畜の世話 盆の行事 ヒブセマツリ
稲刈り 鳥小屋通い 漬けものを仕込む カヤ刈り 山
- 4 下時国家の聞き書き ²²⁸
家の暮らし 十二月から一月 二月から五月
おわりに ²³⁴

時国村の石工——聞き取りと棟札から……………窪田涼子 237

- 1 西(下) 時国の石工 ²³⁸
- 2 南(上) 時国の石工 ²⁴⁴
- 3 近世の石工 ²⁵²

筆者紹介 254

X 時国家と奥能登地域の調査……………橘川俊忠

361

- 一九九五年度の調査の経過と残された課題
- 一九九七年度の調査の経過と残された課題

あとがき 371

奥能登調査参加メンバーの奥能登研究論稿一覧

373

筆者紹介 378